

12月教育委員会会議録

日時：令和7年12月24日（水） 午後1時半

場所：山口県教育庁教育委員会室 (公開)

<p>教 育 長</p>	<p>それでは、ただいまより令和7年12月の教育委員会会議を開催いたします。 なお、和泉委員は所用のため欠席されていますので報告いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 木阪委員、伊藤委員よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、報告事項3は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承 認</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、報告事項3については、非公開で審議することといたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、報告事項に入りたいと思います。 報告事項1について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>報告事項1について御説明いたします。資料の2ページを御覧ください。 文化財専門員の採用選考試験を実施することについては、7月の教育委員会会議において御報告したところです。本日は、その結果について御報告いたします。 「1. 選考日程」についてですが、まず、受験者の募集を8月上旬から9月中旬にかけて行ったところ、2名の応募がありました。こちらの応募者に対し、書類による第1次選考を行った結果、両名とも合格といたしました。その後、11月23日に面接試験による第2次選考を行い、最終合格者1名を決定し、受験者に通知をいたしました。今後、採用手続きを進め、令和8年4月1日付けで採用する予定です。 以上、御報告いたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ただいま、教育政策課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
<p>伊 藤 委 員</p>	<p>山口県の文化財の保護は、国宝重要文化財の数が他県に比べると本当に多いと承知しております。文化財の専門職員は、私もよく存じ上げてないので、何人ぐらいいらっしゃるかということをお教えいただいで、今回応募者が2名、そのうち最終合格者が1名ということでした。</p>

	<p>けども、今も山口県山口市がニューヨークタイムズでも取り上げられ山口県の観光の活性化ということでも、これからの将来の文化財の専門職員の増員が考えられているか、この2点を教えていただけたらと思います。</p>
教育政策課長	<p>文化財専門員につきましては、県庁に2名、埋蔵文化センターに1名、博物館に1名の計4名を雇用しています。</p> <p>なお、現時点、文化財専門員を増員する計画はありませんが、今回が退職に伴う補充であったように現在の体制を維持する方針としています。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。</p> <p>続いて報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。</p>
義務教育課長	<p>10月に実施した山口県学力定着状況確認問題の結果につきまして御報告いたします。お配りしています「～結果報告資料～」を御覧ください。</p> <p>はじめに、5ページ「1.目的」を御覧ください。本調査は、子どもの学力状況の把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等を進め、学力の確実な定着と向上を図ることを目的にしています。</p> <p>2と3(1)にお示ししておりますような期間・対象学年・教科において、1人1台端末を使ったC B T方式で調査を実施しました。また、3(2)にありますように、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などを確認することができる問題を出題しています。</p> <p>次に、7ページの「教科の問題に関する結果」を御覧ください。</p> <p>(1)には、各学年・各教科の平均正答率をお示しし、(2)には、教科ごとに、主な成果と課題をまとめています。ここでは特に、平均正答率が低かった小学校第5学年の算数と中学校第2学年の数学の課題についてお伝えします。</p> <p>小学校算数の課題を御覧ください。5年生の「グラフから必要な情報を読み取り、その根拠について説明すること」「伴って変わる二つの数量の関係を□を使って式に表すこと」の正答率はそれぞれ9.9%、14.1%でした。示された資料から、必要な情報を選び、その根拠について考察することや、未知の数量を□などの記号を用いて表現し、問題場面どおりに読み取り、数量の関係を立式することに課題があると考えています。</p> <p>8ページの、中学校数学の課題を御覧ください。2学年の「整数の性質を、文字式を用いて説明すること」における正答率は16.5%でした。式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えています。</p> <p>次に、児童生徒質問調査の結果についてです。資料は18ページからですが、かいつまんでお伝えします。22ページを御覧ください。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う」について、肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%程度となっており、授業における対話的な学びが充実してきていることは、成果の一つと</p>

いえます。

23ページを御覧ください。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげること（振り返り）ができていると思う」については、肯定的な回答の割合は、学年が進むにつれて減少しており、課題の一つです。今後、授業の中で、学びを振り返ることの意義を教師や子どもたちが十分に理解し、子どもが学習を振り返りながら資質・能力を高めていけるよう、授業改善の取組を支援してまいります。

続いて、35ページを御覧ください。県教委では、児童生徒がふるさと山口を大切にす気持ちをもって、主体的に地域づくりに参画しようとする心意気を「やまぐちPRIDE」という合言葉で表し、そのもとでキャリア教育と地域連携教育を一体的に推進しているところですが、その関連の指標です。「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的な回答の割合は、全ての学年で80%程度、36ページの「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」について、肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%でした。

42ページを御覧ください。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」について、肯定的な回答の割合は、全ての学年で70%未満であり、学年が進むに連れて減少しており、今後は肯定的な回答の割合が高まるように、地域との関わりの中で、自己の在り方や生き方を考えていける教育活動を展開してまいります。以上が、結果概要になります。

最後に、今回の結果につきましては、今後、各市町教委と県教委の合同研修会を行い、47ページにありますように、課題解決のために必要となる取組、学校への働きかけの在り方などの共通理解を図り、各学校への支援を行ってまいります。

以上で、説明を終わります。

教 育 長

ただいま、義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。

伊 藤 委 員

今回の山口県の学力定着状況の報告資料を拝見いたしまして、全体的に安定した数値であることに、山口県の先生方の日々の学習指導が行き届いているのだなというふうに痛感しております。そして今年、私も教育委員は小規模校を視察させていただいたのですが、本当にきめ細やかな、また体験型の授業が充実しており、子どもの人数が少ないからこそ、一人ひとりの子どもたちに目が行き届いているなど、とても素晴らしいことだなと思いました。ただ、毎年言っているのかも分かりませんが、小学生も中学生も理解したり、それから聞き取る力は成果が出ているのですが、引用しながら自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫したり、またグラフから必要な情報を読み取り、その根拠について説明するなどのところが課題となっております。その中で全般的に子どもたちが、読書量が足りないということと言われておりますけれども、結果、読書の時間数が減っているということも1つの原因になっているのかを教えてくださいましたらと思っております。

義務教育課長

ありがとうございます。

山口県の先生方の日々の指導の成果とおっしゃっていただいて本当にありがたいなと思っていますところです。成果と言われるところで今お示しいただいたように、聞く力であるとか様々に読解する力等々はあるのかと思います、確かに資料の読み取りや、それから一部表現力の不足というのは否めないのかなと思っていますところでございます。

お示しいただきました読書量の少なさや足りなさ、C B T方式の学力との相関は見て取るとは少し難しいのかとは思いますが、今も昔も変わらず、不易の部分で読書を進めていくことが大事だと思っておりますので、そういった観点からも、学力については考えて参りたいと思います。

廣 兼 委 員

小学校5年生の算数について昨日懇談会があったので、学校の先生とお話したのですけれど、今回のテストは4年生で習った内容のテストなのに、それが全く理解できていない。特に文章問題では使われている言葉、約分や分数、小数などの言葉を理解していないために問題が解けない。でも解かなくてはいけないから、そこにある数字を適当に当てはめて何とか計算して答えを出している。もちろん、答えは違うのですけれど。そういう子が多くて、できる子と、できない子の差が激しいと言われていました。また、分かる子に、できる子からできない子に教えてもらうっていうのはどうかと聞いたのですけれど、できない子は何ができないのか、何が分からないのかが分からない。だから、教え合うことができないと言われていました。先生が改めて何回も説明しながら解いていくとやっとならなくという状況らしく、授業でも時間を取って繰り返し教えてはいるのだけれども、どうやって学力をつけていこうかっていうふうに悩まされていましたので、この辺は保護者も現状を知って、家でも一緒にやるとか何らかの方法をとっていったほうが、今ここでつまずいてしまうと、どんどん上に上がったときにも余計につまづくので、学校等といろいろ話しながら、親も考えていかななくてはならないなと思いました。以上です。

義務教育課長

ありがとうございます。

小学校の算数については、文章問題等を読み解く力というのは、これからも大事にしていかなければならないですし、身に付けさせていきたいと思っていますところ。お示しいただきました約分等の算数用語の意味については、やはり授業の中で繰り返し教員が教えていく必要があると考えています。最終的にお話いただいた、分かる子とできない子が教え合うことというのは、要は学習を苦手としている子どもの個別の状況によると思っています。

実際の教育現場では、その問題が理解できた子と、なかなかできない子が教え合う場面はよくあります。ただ、子ども同士の学び合いが難しい場合については、例えば、各学校でやっているのは学び直しの時間を大事にしています。それから、夏休みには、「やまぐちっ子学習プリント」という本県独自のプリントを活用して、前の学年にさかのぼっての学びをするという取組がありますので、授業とそういった

木 阪 委 員	<p>子の学び直しの時間というのも、兼ね合いをとりながらやってくことが大事であると思いますので、引き続き市町教委と情報共有をして進めてまいります。</p> <p>これは例年ではございますけれども、読解力の数値が低いというのがどうしても気になっております。それと、並行して、デジタルの進行もしておりますし、仮にこれが3年後5年後に、学校とか自宅でそういったAIの制限をするということができたとしても、3年後5年後には自宅で簡単に小学生でも質問をしてというのが簡単にできてしまうという形は、今でも多分できると思いますけれど、そういったところの学校現場の苦悩がどうしても出てくると思いますので、今後いかに対応していくのかということとは色々議論を重ねて期待していきたいところでもあります。そして「やまぐちPRIDE」の質問が2つあって、言われてみてそういう意図があったのかというふうに私も思ったのですが、本来であれば小学校とかで、そういった意識を高めて、中高と伸びていくのが本当はいいのだと思うのですが、どうしても年頃の方々なので、そういった数値が減っていくのは致し方ない部分もあるかもしれませんので、そういうことを考えれば、小学校の頃からですね、その全体数値をもっともっと上げておいて、中高と仮に下がったとしても、地元への関心度がよく高まるような、そういったことも考えてもいいのかとも、この数字、表を見て感じた次第でございます。以上です。</p>
義務教育課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>1点目、生成AIとかデジタルに関わってというお話があったかと思いますが、今本県では、全ての公立中学校において、生成AIの活用に、一生懸命取り組んでいるところです。今後、数年先を見据えて子どもたちが、生成AIを活用して指示をする力と、明確に問いを立てて、何を問えばいいのかという力を小学生段階でもつける時代が来ると思っていますので、そういったところのアンテナといいますか感度についても引き続き高めてまいりたいと思います。</p> <p>それから2点目の「やまぐちPRIDE」についてです。小中高と段階を踏まえて、子どもたちの心身、それから「やまぐちPRIDE」にかかる、言動等々も含めてですね、段階を踏まえる必要があると思っていますので、こういった数値を大事にしながら、小学校で基礎を固めて中学校・高校へと、展開できるように引き続き取り組んでまいります。</p>
伊 藤 委 員	<p>山口県には「やまぐちっ子学習プリント」というのがございますけれども、ものすごく良い企画だなというふうに思っております。いろいろな学校の保護者がいらっしゃって、「やまぐちっ子学習プリント」が子どもたちにとってすごくよいものとして提供されている御家庭もあって、そういう御家庭は学校からプリントをファイリングされて学校からまとめて、何ヶ月後とかわからないのですが単位で持って帰るそうです。それがもう定着しているのかなと思って、他市の何校かに訊いてみたのですが、ファイリングをしてないバラバラで持って帰る学校もあれば、「やまぐちっ子学習プリント」を、まだ</p>

<p>義務教育課長</p>	<p>見たことがないという保護者もいまして様々なのです。これは、学校長の考え方で行われているのか、その辺を教えていただけたらと思っています。</p> <p>「やまぐちっ子学習プリント」についてですが、このプリントについては、県内の先生方を集めて、学習指導要領に沿った問題作成を積み重ねている良問揃いのプリントだと、こちらとしては捉えています。そのプリントの活用ですが、様々な教材等がある中、各学校の方で、適切に使われるよう判断されるものであると捉えています。多くの学校ではプリントを刷ってプリントが入るような引き出し等々を重ねて自由にプリントが取れるようにしている学校。いわゆる朝学という時間で計画的に使っている学校。一人一台端末タブレットを使っていますので、それをPDF化してプリントという形ではないですが、子どもたちの中にはこのタブレットの中でその問題を解くという学校もありますので、お示しいただいた学校の差異というのはこちらでも詳細は把握できませんけれども、そういった活用の仕方子どもたちの力をつけることに寄与できているのかなと考えています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。 続いて報告事項4について、学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>
<p>学校安全・体育課長</p>	<p>それでは、「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の山口県の結果について説明します。 本調査は、資料48ページの2(2)(3)にありますように、令和7年4月から7月末までの間に、全国の小学5年生及び中学2年生を対象に、実施されました。 それでは、資料49ページ、児童生徒の体力の状況として、(1)各種目の結果及び体力合計点についてです。太枠囲みが令和6年度の本県平均を上回った種目、網掛けの部分は、全国平均値以上の種目です。令和6年度との比較では、小5男女において多くの種目で記録が向上しました。また、全国平均値との比較では、小5男女において、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とび、ボール投げが、中2男女においては、上体起こし、反復横とび、20mシャトルランが上回りました。表の右端、本県の体力合計点ですが、令和6年度と比較して、小5男女で上回り、小5女子、中2男女においては、全国平均を上回りました。資料50ページには、平成21年度以降の体力合計点の推移を掲載しております。 次に、資料51・52ページのレーダーチャートは、全国平均を50としたときの、各種目の令和6年度との比較で、点線が令和6年度、実線が今年度を示しております。ここでは、全体的に反復横とび、20mシャトルランが強みであると同時に、小5の長座体前屈が引き続き課題であることが分かります。また、ページが飛びますが、61ページは、現在の中2の小5時点との比較を示しています。男女ともに、全体的にチャートが大きくなり、小5時点で全国平均を大きく下回っていた、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とびに大きな向上が見られ、全国平均を上回った種目もあります。</p>

	<p>次に、資料53ページ、5.児童生徒の体格の状況についてです。身長、体重とも全国平均と比較して、全ての対象学年で下回りましたが、身長と体重のバランスのとれた児童生徒の割合は、小5男女で上回りました。54ページをご覧ください。</p> <p>6.運動習慣等の状況についてです。(1)体育の授業を除く「1週間の総運動時間」について、上のグラフ、令和6年度の本県との比較では、全ての調査対象で下回りました。同じく下のグラフ、全国との比較では、小5女子以外で、下回りました。</p> <p>次に55ページ、7.児童生徒の運動やスポーツに対する意識についてです。(1)「運動やスポーツをすることが好きと回答した児童生徒の割合」は、令和6年度との比較では、小5男女で上回りました。また、小5女子、中2男女は、全国平均を上回りました。(2)「体育(保健体育)の授業が楽しいと思う児童生徒の割合」は、令和6年度との比較では、小5男子、中2女子で上回りました。また、全ての調査対象で全国平均を上回りました。</p> <p>県教委としましては、来月開催する「山口県体力アップチャレンジ協議会」での専門家の意見等を踏まえ、「体力向上維新プロジェクト」の継続を基本に、市町教委や関係機関、団体等と連携しながら、教員の指導力向上や各学校の体力課題の解決につながる取組の一層の充実を図り、体力向上と運動やスポーツをすることが好きな子どもの育成を目指してまいります。</p>
教 育 長	<p>ただいま、学校安全・体育課から報告事項4について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p>
伊 藤 委 員	<p>令和7年度の体力の合計点が令和6年度に比べて上昇しています。山口県の体育の取り組みの成果だと、私も今年インターハイを見させて頂いて、皆さんの求めた成果だなと嬉しく思いました。しかしながら、先ほど説明していただいた54ページの運動習慣等の状況を拝見しますと令和6年度に比べて小学生も中学生も、1週間の総運動量の時間が減少しています。そこが少し気にかかりまして、これは家庭での生活の変化や公園等が整備されてないのかなとか、色々な要因があるとは思いますが、そういうところで子ども達の運動量が少なくなっているのか、その辺を教えていただけたらと思います。</p>
学校安全・体育課長	<p>54ページになるとと思います運動習慣等の状況で、全国的にも運動の総運動時間というのは低下傾向にございます。山口県も低下傾向で下のグラフで全国よりも山口県は低い状況というのはありますけど、実際にはクロス集計とかまでは、やっておりませんのでわからない状況ですけれども全国的に見ますと、要因としてそれがすべてという訳ではございませんけど睡眠時間が伸びておるそうです。それとスクリーンタイムですね。テレビ、どうしてもICTもこういったものも使えますのでその時間が増えている。それとその時間がどう関係するかというのはわからない状況です。しかしながら全国平均よりも、劣っておるとところはもう少し分析をしていく必要もあるかなと思っております。基本的には生活習慣が変わってきておりますし、コロナ禍いろんなことの要因も考えられます。国としても、コロナ禍前に戻し</p>

藤田委員	<p>ていこうというふうな考えもありますので、こちら専門家等の御意見もいただきながら、そういう取り組みを進めていきたいと思っております。どうもありがとうございます。</p> <p>小中体育とか運動会が来るとお腹が痛くなるタイプだったので、お願いというか私の感想なのですが、子供の小中の頃の環境ってすごく大事なので体育の授業が苦手なのに、みんなの目の前で苦手な鉄棒のテストをさせられたり、体を動かす子が苦手なことも授業の内容にあったので、大人になって思うのは、スポーツとか競技はまた別にしても、健康を維持するためにも体を動かすことは楽しいっていう刷り込みっていうのはすごく大事だと思うので、今の小中の子供たちに願うのは授業としてなくても、体を動かす楽しさを伝えられるような仕組みっていうかそういう取り組みを続けていただけたらいいなというふうに思いました。</p> <p>また、先ほどお話も出ましたけどスクリーンタイムが増えるってことはそれだけやっぱり体を動かさない時間が、いや応なしに増えるってことで、日本人は働いている人でも先進国の中でも座っている時間が一番長いって言われていて、それが健康にも影響しているって言われていますので長い目で見てもこういう体力テストとか体を動かすことの必要性を子供たちに意識づけるのは大切な取り組みだと思いますので、引き続き良い取り組みをこのまま続けていただけたらいいなと思っております。</p>
学校安全・体育課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>一番は体育の授業だというふうにこちら当然思っております。その中で肯定的に児童生徒のほうが体育の授業が楽しいという回答が非常に多いということは先生方の御努力でもあると思いますし、いろんな形で競うというよりは、そうやって生涯を通じて健康を考えながら、体育の授業を先生方にさせていただいていると捉えております。また、プロスポーツとの連携をしてみたりとか県教委のほうでも色々な仕掛けを、子供達がそういうスポーツに親しむ、またそういうことを知ったりとか、そういう行動が起こせるような動機づけも行っているところで、いろんな手法を試してみたり実施して生涯運動するということに心をかける児童生徒の育成に努めて参りたいと思っております。ありがとうございます。</p>
木阪委員	<p>今回の運動調査なのですが、46ページの少し前のページになりますけど新体力テストを行うときに、地域の方々保護者の方々がという問いがありまして、これとは別ものかもしれないので大変恐縮なところがありますけども、今回いろいろな数値が伸びております。全国的にも多分伸びていますが、その中でもかつての自分たちよりも超えていたり、あるいは全国的にも伸びているというのは、先ほどからお話にもありますとおり、日々の生活習慣がとても落ち着いてきているというのも要因であろうかなというふうに感じております。それがひいては体力の向上で、やればできると認められるという、それが学力の向上に繋がれば一番いいかなと思うのですけれど、さっきの地域の方が一緒に、その授業にいつもというわけにはいかないと思っておりますが</p>

<p>学校安全・体育課長</p>	<p>こういった取組が、この表では小学校で大体6割ちょっと切るぐらいあるのですが、こういった取組は非常に有意義なものではないかなと思いますので、できる限りこういったことが浸透すればいいかなと感じております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>実は資料をいただいたときに質問紙のところを見て、これは新体力テストというものを設けております。実際には学校でどんなことが行われる、以前からありました運動会、体育祭、これはございますけども、新体力テストを保護者と一緒に行ったり、そういった事例も見られるようになっております。また、学校運営協議会のほうでこの体力的な部分というか新体力テストを自校の課題等を抽出されて話し合われる場合もございますし、保護者の学級活動の中でそういったことをされるというところも出てきておるとい声はいただいております。また、保護者の地域の方のお力も借りながら、子どもたちの体力向上運動好きの子どもを増やしていきたいなというふうに思っております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
<p>教育政策課長</p>	<p>次回の教育委員会会議は、令和8年1月22日（木）午後2時を予定しております。よろしく申し上げます。</p>